

魅力、希望、感動 全国に



開始式で高らかに選手宣誓をする山本大史(左)と澤尻磨里英(中央)。右は旗手の津久家優=29日、YSアリーナ八戸

式に先立って行われた歓迎アトラクションでは、県立八戸東高表現科の1、2年生と、プロバフォーマンス団体「BLUE TOK

この後、選手団代表の山本大史(八戸西高1明大)と澤尻磨里英(八学大)と共にスピードスケートが「八戸の地からスポーツの持つ魅力、希望、感動を全国に届けるべく、全身全霊で戦い抜く」と宣誓した。

開始式では、各都道府県選手団の旗手が北から順に登場。開催地の青森県は成年アイスホッケーの津久家優主将(青い森信金)が一番最後に入場した。

日本スポーツ協会の伊藤雅俊会長や鈴木大地スポーツ庁長官らがあいさつ。開催地を代表して、小林眞八戸市長が「郷土の代表として戦う皆さんに、新しい屋内リンクで新たな歴史を刻んでほしい」とエールを送った。

第2日の30日はスピードスケートも始まり、3市町5会場で3競技が行われる。(取材班)



「銀盤にきたる新風 いま氷都(ここ)に」を大会スローガンに、第75回国民体育大会冬季大会スケート・アイスホッケー競技会「氷都新時代!八戸国体」が29日、八戸市など青森県南地方で開幕した。同地方でのスケート国体開催は2011年以来9年ぶり。初日は、昨年9月に供用開始となった屋内リンク・YSアリーナ八戸で開始式が行われ、42都道府県の代表が晴れ舞台での健闘を誓った。大会は来月2日まで、同市と三沢市、南部町で4競技に熱戦を展開する。

詳報 12、13頁
関連記事 23頁

県勢誓い、熱戦開幕